

第 17 回分子科学討論会 開催報告

第 17 回分子科学討論会を、令和 5 年 9 月 12～15 日に、大阪大学豊中キャンパスにおいて開催しました。本討論会は、分子科学会の年次講演会にあたる、学会として最も重要な行事です。分子科学会は分子科学の研究および教育の振興を図り、学術、文化の発展に寄与することを目的として 2006 年に設立されました。大学、国立研究所の教員、研究者および大学院生を中心に 1597 名の会員(2023 年 7 月時点)から構成されています。分子科学討論会は 2006 年の分子科学会の設立以降、2007 年から毎年開催されており、さらにその前身である分子構造総合討論会から算えますと 50 年以上の伝統を持ちます。

分子科学討論会では、気相、液相、固相、界面・表面、クラスター・微粒子・ナノ構造体、生体関連分子、理論・計算の 7 分野に発表を分類し、例年 5 会場のパラレルセッションで口頭発表を行っています。今回は、全学教育推進機構の 4 教室と大阪大学会館の講堂を口頭発表会場としました。また、大学会館アセンブリホール、サイエンス・コモンズ、スチューデント・コモンズの部屋をポスター発表会場としました。討論会の準備段階においては、まだ新型コロナ対策のために教室の収容人数に制限があり、会場の選定には大いに悩みました。幸い、開催の半年前の段階では収容人数の制限も撤廃される見通しが立ち、大きなスクリーンを備えている上記の教室を利用することを決めました。

今回の討論会では、252 件の一般口頭発表、400 件のポスター発表という例年通りの多くの申込をいただきました。これらに加えて、本学生命機能研究科近藤滋先生による特別講演、11 件の招待講演、4 件の奨励賞受賞講演をお願いしました。さらに、11 社から広告、18 社から展示を通じて最新の製品情報も提供いただきました。参加者は昨年を超える 1039 名と、大変盛況でした。

この数年間、社会が平安であることが、私たちが研究を楽しむ上でいかに大切かと言うことを痛感しました。新型コロナで言いますと、この討論会も例外ではなく、2020 年は中止、代わって学生のためのオンライン討論会が開催されました。2021 年はオンライン形式の開催で、2022 年はようやく対面式で、でも懇親会はできませんでした。今年は幸いにしまして懇親会も開催でき、コロナ禍前のフルメニューに戻すことができました。

第 17 回分子科学討論会は、理学研究科化学専攻物理化学講座および熱・エントロピー科学研究センターを主体として、基礎工学研究科と大阪公立大学の物理化学研究室の協力のもとに準備と運営を行いました。新型コロナの過渡期であったため、判断の難しい問題も多かったのですが、実行委員の尽力により大過なく 4 日間の討論会を終えることができました。8 月後半は台風が頻発し、会期中の到来が心配されましたが、われわれの思いが天に通じたのか、台風どころか雨に降られることすらほとんどありませんでした。

理学研究科、基礎工学研究科、全学教育推進機構、コモンズの事務の方々には、備品の貸し出し、教室の利用などで大変にお世話になりました。深く感謝いたします。

(水谷泰久)

